慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日系企業の現地法人における諸変数とパフォーマンスの関係
Sub Title	
Author	三好, 廉昭(Miyoshi, Yasuaki) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2003
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2003年度経営学 第1915号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002003-1915

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	浅川研究会	学籍番号	８０２２８９３７	氏名	三好廉昭

（論文題名）

日系企業の現地法人における諸変数とパフォーマンスの関係

（内容の要旨）

ビジネスのグローバル化が叫ばれる今日、日系企業による海外進出は増加の一途をたどっている。こうした中、現地法人の「パフォーマンス」には、“人”、“物”、“金”、“情報”といった諸要因が複雑に絡み合い、影響を与えていることは言うまでもないが、マクロ的にそうした諸要因を観察した場合、何かある傾向のようなものが導かれないものかと考えてみた。

このような海外直接投資の研究分野において、これまで常識と考えられてきたことがいくつかある。例えば、『現地法人の所有形態は、“合弁会社”の方が“完全子会社”よりも、現地の情報が入手しやすいので、「パフォーマンス」が良くなる。』であるとか、「現地法人の責任者＝社長は“日本人”である方が“外国人”であるよりも、本社とのコミュニケーションが円滑になるので、「パフォーマンス」向上に繋がる。」であるとか、「日系企業は地理的にも文化的にも近いのでアジアに強い。」などである。

確かにこれまでの研究でこのような一般論を実証した研究もあるが、それらは研究対象となる地域や国が限定されており、時期的にも９０年代に行われたものがほとんどである。それでは、今日においてもこうした一般論は成り立つのであろうか。そこで、本論文では研究対象を全世界に広げ、最新データに基づいて諸変数をより体系化することによって実証検証を試みた。

結論として、「操業年数」の長さや「従業員数」の多さといった変数は、「パフォーマンス」に対して比例の関係にあることがわかり、従来の常識を肯定するものではあったが、一方で「所有形態」、「社長」の国籍、「立地」などのその他の変数については、必ずしも従来の常識を肯定するものではなく、むしろ正反対の結果が導かれた。